

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0174700781		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホーム新得ふれあい館		
所在地	〒081-0033北海道上川郡新得町西3条南6丁目1-3 (電話) 0156-69-5177		
評価機関名	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年10月22日	評価確定日	平成21年1月27日

【情報提供票より】 (平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 14年 9月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤	6人, 非常勤 3人, 常勤換算5.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	24,000 円	その他の経費 (月額)	14,000~16,300 円	
敷金	有 (円)	<u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (25,200 円)	有りの場合償却の有無	有 <u>無</u>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	700 円		

(4) 利用者の概要 (10月22日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護 1	2 名	要介護 2	5 名		
要介護 3	1 名	要介護 4	0 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	1 名		
年齢	平均 80.7 歳	最低	72 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	サホロ クリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、小規模な地域特性を活かして、役場担当者との協働、保健センターのジムの活用、協力医療機関との連携等を十分に図っている。管理者及び職員は、常に利用者の尊厳を重視したケア実践に努め、その人らしい暮らしやペースを大切にしながらきめ細かいケアの提供に日々取り組んでいる。新得山の雄大な自然を一望できる閑静な住宅街の中で、利用者一人ひとりの身体機能の維持・向上や、個別の状況に応じた支援に力を注いでおり、今後ますます期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回改善課題としてあげられていた、事業所独自の理念の作成と共有、評価の意義の理解と活用、研修内容の職員への周知、栄養バランスへの配慮等は、事業所内部の努力や、運営推進会議や地域資源を活用しながら具体的な改善策を講じるなど改善している。その他の改善課題については、引き続き改善への取り組みが期待される。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価には全職員で取り組み、日ごろの介護実践を振り返る機会として活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	3ヶ月毎に開催する運営推進会議では、事業所からの活動報告を行うとともに、参加委員からの意見・要望等も活発に出ている。その意見をもとに、委員も参加する昼食会や避難訓練を行い、地域との連携強化を図り、サービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	3ヶ月毎に発行する事業所たよりでは、行事や全体的な生活状況を報告している。また、利用者それぞれの担当者が個別の状況を知らせるおたよりを送付し、日ごろの暮らしぶりや健康状態、金銭出納の明細等を詳しく伝えている。面会時に家族からの意見・要望の聴取に努め、運営推進会議の際に討議内容に加えるなどして運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	町内会に加入し、地域行事 (役員会、花見、サマーフェスティバル、敬老会等) に参加したり、町の保健センター内のジムを利用するなど、地域との交流、地域資源の活用に努めている。近隣住民とは顔馴染みであり、地域住民との良好な関係を築いている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、利用者の尊厳を保持しつつ、安心した暮らしを提供することを事業所独自の理念として作り上げ、平易な言葉で表現し、事業所内やパンフレットに明示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアサービスを、利用者の尊厳や自己決定を尊重して行っているかを職員全員で振り返る機会を設けており、理念の共有や実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、役員会、花見、サマーフェスティバル等の地域行事に参加したり、町の保健センターのジムを利用するなど、地域との交流に努めている。近隣住民とは顔馴染みであり、良好な関係を築いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には全職員で取り組み、日ごろの介護実践を振り返る機会として活用している。前回の外部評価の結果を真摯に受けとめ、できる限り具体的な改善策を講じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月毎に開催する運営推進会議では、事業所からの活動報告を行っている。また参加委員からは、意見・要望等が活発に出されている。その意見をもとに委員も参加した昼食会や避難訓練を行い、地域との連携強化を図ることでサービスの向上に活かしている。	○	会議内容は会議録に整理され、いつでも閲覧できる体制にはなっているが、職員全員への周知までには至っていない。会議内容については職員全員が共有し、サービス向上に向けて更なる活用が期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者は、事業所や利用者の状況をよく把握しており、町の栄養士による栄養バランスについての指導や、事業所による町のイベントへの利用者の参加機会の確保など、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月毎に発行する事業所だよりでは、行事や事業所での利用者の生活状況を報告している。また、利用者それぞれの担当者が、個別の状況を知らせるおたよりを送付し、日ごろの暮らしぶりや、健康状態、金銭出納の明細等を詳しく伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族からの意見・要望の聴取に努めるとともに、運営推進会議の際には、討議内容に加えるなどして事業所の運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、利用者が馴染みの職員による支援を受けることの重要性を認識しており、職員の雇用の継続にできる限りの努力をしている。やむを得ず交代する場合には、前もって新規職員を確保し、十分な引き継ぎをするように努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・パート職員の研修など、段階に応じた法人内の研修を計画的に行うとともに、外部研修への積極的な参加をバックアップし、職員の質の向上を図っている。研修参加後は、カンファレンス時に報告会を行い、他職員への周知に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十勝グループホーム協議会に参加し、地域の他の事業所との交流を図っている。一日訪問研修や見学等で相互交流の機会を設け、ともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたっては、本人・家族と十分に面談した上で納得の行くサービス利用開始となるように努めている。利用開始前の見学を何度も繰り返して不安感の軽減につなげたり、利用開始後のケアに職員が注意を払うことで、環境の変化による悪影響を最小限に抑えるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事活動や家庭菜園作り、趣味活動等、生活の中に利用者一人ひとりが活躍できる機会を設け、職員が利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの自己決定を尊重し、外出や散歩、一時帰宅等の要望に出来るだけこたえるように努めている。また、利用者の身体機能を見極めながら、それぞれの利用者の身体機能が低下しないよう積極的な働きかけを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制を導入し、担当者が利用者の状態を把握した上で、カンファレンス時の意見、家族の要望等を反映した個々に応じた、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスで意見交換し、定期的な見直しや評価を行うとともに、入退院時等の状況変化が生じた際は、現状に見合うように介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて通院の同行支援を行うとともに、利用者が、週2回地域の保健センター内のジムで身体機能の維持・向上を図っているように、地域資源を活用するなど柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけでなく、24時間体制で相談できる医療機関とも連携しながら、利用者の健康管理に努めている。利用者や家族の受診希望も対応は可能であり、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた話し合いを、必要に応じて行い、方針を共有している。また、利用開始時に利用者や家族と話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の状況に応じて対応方法を工夫しつつ、一人ひとりの尊厳に配慮した接遇に努めている。介護記録等の保管については、できる限りの配慮をしているが、介護計画等は個人所有のパソコンを使用している。	○	今後は介護計画等が重要な個人情報であると認識し、個人情報の保護にさらなる配慮を期待したい。携帯可能なディスク等で個人情報を保存することについて再考し、事業所内に専用パソコンを設置することが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のジム通い、自宅訪問、ドライブや買い物への支援等、一人ひとりのペースや希望に応じた支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの状態に応じて準備や盛りつけ、配膳や後片付け等を職員とともにしながら、職員と一緒に和やかに食卓を囲んでいる。利用者の希望を反映した献立、滑り止めマットや食べやすい食器等への配慮も行き届いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の回数や時間帯、同性介助等、利用者の希望に応じた入浴支援に努めている。また、温泉での入浴機会を設けており、利用者の楽しみの一つとなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度や花壇の手入れ、畑仕事等、利用者それぞれが生活歴を活かした役割で、力を発揮できる機会を設けている。また、筋力トレーニングや外食等、気晴らしや楽しみのある暮らしを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出行事に加えて、ドライブや買い物、自宅訪問や保健センターでの筋力トレーニングなど、利用者の希望に応じた外出支援に努めており、車椅子利用者への外出支援にも配慮が行き届いている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていない。利用者の所在や服装等に注意を払い、外出する利用者には、職員がそっと付き添うようにし、利用者の自由な暮らしを支援している。地域の徘徊SOSネットワークにも参加して、万一の場合に備えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	救急救命講習の受講や、2ヶ月に一度、防災自己点検を実施するとともに、利用者参加の避難訓練を実施している。	○	今後は夜間を想定した訓練や、地域住民との更なる連携強化、災害時の食料や毛布の備蓄等も視野に入れた災害対策の充実を期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて、水分や食事摂取量を個別に記録している。献立の内容については、栄養士から助言を得られるよう連携している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは、家庭的で落ち着いた雰囲気となるように調度や装飾等に配慮している。大きな窓からは、新得の自然が一望でき、季節感を感じられるしつらえになっており、利用者がそれぞれのお気に入りの場所で穏やかに過ごせるスペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室には、トイレ・洗面台を設置しており、使い慣れた家具、冷蔵庫や仏壇なども希望に応じて自由に持ち込んでおり、安心して過ごせる場所となっている。		

※  は、重点項目。